

まず「安心」してもらうために

チームで行う心不全の最新治療

いったん発病すると、完全に治ることが少ない病気、心不全。

ただ、薬や手術、ペースメーカーをはじめとする補助装置の組合せで再発を予防したり、これ以上悪くならないようにするなど、治療法は日々進化しています。

そこで、病気の基礎知識から最新治療の現場、そして診断後の暮らし方まで最前線で活躍する医師がわかりやすくご紹介します。

2018.6.10 (開場12:30) 日 13:00 ~

《会場》富山大学 黒田講堂 参加無料・定員500名

〈主催〉日本心不全学会 〈共催〉富山大学附属病院循環器センター
〈事務局〉富山大学医学部第二内科
〈申込・問合せ〉心不全学会市民公開講座運営事務局(株式会社PCO内)
〒939-8063 富山市小杉120 TEL.076-461-7028/FAX.076-428-9156



まず「安心♥」してもらうために

チームで行う心不全の最新治療

- ▶ 13:00～ **心不全ってどんな病気?**
「心不全の定義」
絹川弘一郎(富山大学医学部第二内科教授)
一般に心不全と呼ばれる病気には、血圧の異常や心臓の筋肉の病気、血管の不具合など様々な原因があります。それぞれに適した治療を患者さんと一緒に進めるために、まず「心不全」とは何かをわかりやすくお話しします。
- ▶ 13:15～13:40 **手術の負担を小さくするために**
「カテーテル治療:TAVI・MitraClip®・Impella®」
上野博志(富山大学附属病院第二内科助教)
・TAVI(タビ):カテーテルによる大動脈弁狭窄症の治療
・MitraClip®(マイトラクリップ):カテーテルによる僧帽弁閉鎖不全症の治療
・Impella®(インペラ):カテーテルによる補助循環
患者さんの治療の負担を少しでも小さくするために、カテーテルを使った手術が広がってきています。疾患の場所や状態にあわせて最善の方法を選択するカテーテル治療についてお話しします。
- ▶ 13:40～14:05 **人工心臓ってどんなもの**
「患者さんにあわせた人工心臓のタイプ」
横山茂樹(富山大学附属病院第一外科診療講師)
代わるものがない心臓だけに、重症化した場合には人工心臓を用いることがあります。救急的な措置に使うものから、体に装着して長期的に使うものまで、患者さんの状態にあわせた人工心臓についてお話しします。
- ▶ 14:05～14:30 **患者さんの暮らしの質を高めるために**
「植込型補助人工心臓の外来治療」
中村牧子(富山大学附属病院第二内科)
長期にわたって人工心臓が必要な患者さんには、外来治療で病気や補助装置の管理を行います。日々の暮らしと治療の両立を実現するために、実際の患者さんの声を交えてお話しします。
- ▶ 14:30～ 質疑応答
- ▶ 15:00 終了(予定)

日本心不全学会 市民公開講座

受講申込書

必要事項を記入の上、FAXまたはメールにてお申込みください。
会場準備の都合から、なるべく事前申し込みにご協力ください。
整理券はありません。当日、直接会場にお越しください。

申込先 (株)PCO内「日本心不全学会 市民公開講座」係

FAX 076-428-9156

メール shinfuzen-t@pcojapan.jp

フリガナ		連絡先	() -
氏名			
メールアドレス			
質問事項			